

## 留学体験記

2023年04月 ~ 2024年02月

新羅大学 交換留学生 徐隣

将来、日本語の先生になるため、実際に日本で住んでみて、教科書の中での日本の文化を経験したかった。これが留学を決心した理由である。留学先候補である何校かの中で鹿児島を選んだ理由は、都市の忙しさから離れた自然豊かな街で、日本を経験したかった。

最初に鹿児島に着いた時、「あ、やっぱり鹿児島で良かった。」と思った。余裕を持っている都市、壮大な自然に恵まれている都市、街の中に歴史が生きている都市である鹿児島の魅力に一瞬で惚れてしまった。もちろん、不便なところも沢山あり、慣れない生活も楽ではなかったが、それも1つの面白さだと感じる事ができた。もともと料理が好きだったので、鹿児島の食材の甘みを感じて、料理することも生活の中での楽しみだった。



志学館大学では留学生向けの授業があって、もっと早く日本の生活に適応できるようになった。その授業では、仙巖園や維新ふるさと館などの見学で、鹿児島と日本の歴史学ぶことができた。さらに、近代文学館や美術館での見学で、自分が感じたことを日本語で口に出す訓練やレポートの作成なども方法も身に付けるこに入って日本人、台湾人の留学生と交流した。このサークルのおかげで日本人の友達もたくさんできて、様々な所に観光したり、祭りに参加することもできた。

国分に行って初めて日本の祭りを見たり、フェリーに乗って桜島を見に行ったり、大阪、福岡、霧島神宮など、この一年間様々なところを観光した。少々残念だったことは種子島や屋久島に行けなかったことだ。また鹿児島に帰って来たら必ず訪問したい。

そして、日本人に韓国の料理を教える機会が多くてキムチ、チゲ、ブルゴギなどを一緒に作ったり、志学館大学のカフェ風で韓国フェアという韓国の料理を販売する経験もできた。留學生活の中で、年越しそば、角松など日本語の教科書でみた文化を実際見るとものすごく嬉しかった。もちろん、日本語も上達することができた。



一瞬のような一年を過ごしても、また確信して思う「あ、やっぱり鹿児島で良かった。」と。日本の留学先を悩んでる人がいたら鹿児島をお勧めしたい。